



第98巻 第3号 史学・地理学・考古学

論 説

- 近世ブラウンシュヴァイク公国における
財団・基金の歴史……………佐々木 博 光 (1)
——財団・基金の宗派・地域史に向けて——
- 一九世紀後半フランスにおける上級行政官の養成……………岡 本 託 (37)
——第二帝政期および第三共和政期のコンセイユ・デタ
傍聴官制度を中心に——
- 大正初期の「剰余金支出」問題……………国 分 航 士 (71)
——第二次大隈内閣期を中心として——

書 評

- ブライアン・ウォード＝パーキンズ著 (南雲泰輔訳)
『ローマ帝国の崩壊
——文明が終わるといふこと——』……………富 井 眞 (104)
- 武上真理子『科学の人・孫文 思想史的考察』……………深 町 英 夫 (111)

紹 介

- 金田章裕著『タウンシップ
——土地計画の伝播と変容——』……………片 平 博 文 (117)

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

タウンシップの影響は世界的な範囲に拡大したと見ることが可能である。そして事例地域最後の北海道は、中国にその起源を持ち、かつ古代以降、主として日本の沖積平野に展開した条里の土地区画が広がる地域にも極めて近い。日本は、まさに大陸の規模を越えて畑作を大きく発展させたタウンシップと、稲作の能率的な経営を支えてきた条里の、二つの代表的な土地計画が接する世界でも珍しい地域であるといえる。著者の金田氏が条里制研究の第一人者でもあることを踏まえるならば、本書のもう一つの目的は、これら両者の比較から新たに生み出される研究テーマを、若手の研究者に対して提示することにあつたように思えてならない。

(B6判 二二四頁 二〇一五年一月)

ナカニシヤ出版 税別二〇〇〇円)

(片平博文 立命館大学文学部教授)

『史林』投稿規定

- ◇資格 本学会員であること。
- ◇投稿受付原稿の種類、長さ
論説 1段組54字×19行の体裁で、三二〇〇字以内
- ◇研究ノート 2段組29字×20行の体裁で、二〇〇〇字以内
- ◇研究動向 2段組29字×20行の体裁で、三二〇〇〇字以内
- ◇史料紹介 2段組29字×20行の体裁で、三二〇〇〇字以内
- ◇書評・論文評 2段組、八〇〇〇字以内
- ◇紹介 3段組、一二〇〇字程度
- ◇原稿の種類を明示すること。
- ◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの紙幅に収めること。
- ◇注は各章末に入れること。
- ◇「欧文タイトル」を添付すること。
- ◇論説には「要約」(四〇〇字以内)を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。
- ◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」(六〇〇～八〇〇語程度)を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。
- ◇投稿に際しては、(1)プリントアウト一部もしくはPDFファイル、および(2)電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の「電子データ作成要領」を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。
- ◇図版を用いる場合は、下記「補足」の「図版作成要領」に従って作成、添付すること。
- ◇注意・編集委員会において、印刷技術上、図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、その経費の一部、数千円～数万円を負担していただきます。あらかじめご了解下さい。

送り先・史林編集委員会

〒六八五-一 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、USBフラッシュメモリなどのメディアに保存して郵送することを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクrosoft・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式(OSおよび使用ソフト)を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト(illustratorやPhotoshopなど)やバージョンについて事前に照会・確認すること。

〈図版作成要領〉

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。

・仕上寸法は、最大で170mm×110mm(キャプション込み)とすること。

・図および写真は、仕上寸法の2倍(面積4倍)程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意：図表に不備がある場合は、投稿者に

修正を依頼するか、編集委員会が修正します(経費は投稿者負担となります)。

〈論文等の電子的公開について〉

・著者が論文等を任意のサーバーに、機関レポジトリ等を使って公表する場合は、以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾はいは不要とする。

イ) 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。
ロ) 論文の出版を明らかにすること。
ハ) 営利目的でないこと。

問合せ先：史学研究会事務局

SHR@pun.kyoto-u.ac.jp

(二〇一四年一月改定)

受 贈 誌

(二〇一五年三月四日)
(二〇一五年五月一日)

鹿児島経済論集(鹿児島国際大学経済学部
学会) 五五―一―四合併号

斯道文庫論集(斯道文庫) 四九

Journal of Northeast Asian History
(Northeast Asian History Foundation)

一一一

國史學(國史学会) 二一五

史窓(京都女子大学史学会) 七二

鴨台史學(大正大学史學會) 一三三

待兼山論叢文化動態論篇(大阪大学大学院

文學研究科) 四八

神女大史學(神戸女子大学史学会) 三二

史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))

一一四一一

国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民俗

博物館) 一九三

関西学院史學(関西学院大学史学会) 四二

愛大史學—日本史・世界史學・地理學—

(愛知大学文学部人文社会学科) 二四

經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八七—四

經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八八—一

—三

社会学年誌(早稲田社会学会) 五六

撰大人文学科(撰南大学外国語学部) 二二二

立命館平和研究—立命館大学国際平和ミ

ュージアム紀要—(立命館国際平和ミ

ュージアム) 一六

Territory and Seas 353-367 八

立命館国際平和ミュージアムだより(立命館国際平和ミュージアム) 二二—三
成大歴史學報(國立成功大學歷史學系) 四七

立命館産業社会論集(立命館産業社会学会) 五〇—四

日本學士院紀要(日本學士院) 六九—二

仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書 研究発表と座談会(代表 西上実) 四一

信濃(信濃史学会) 六七—三

韓國民族文化(釜山大學校韓國民族文化研究所) 五四

日本史研究(日本史研究会) 六三—一

法政史論(法政大学大学院日本史学会) 四二

古代東ユーラシア研究センター年報(専修大学社会知性開発研究センター) 一

駿台史學(駿台史学会) 一五—三

史淵(九州大学大学院人文科学研究院) 一五—二

立命館法學(立命館大学法学会) 三五—七

三五—八

國家學會雜誌(國家学会事務所) 二一—八

一—二

東洋學文獻類目(京都大学人文科学研究所附屬漢學情報研究センター) 二〇—二二年

度

神道宗教(神道宗教学会) 二二—六

神道宗教(神道宗教学会) 二二—七

福島大学人間発達文化学類論集(福島大学人間発達文化学類) 一九

福島大学人間発達文化学類論集(福島大学人間発達文化学類) 二〇

皇學館大學紀要(皇學館大學) 五—三

立命館文學(立命館大学人文学会) 六—四

古代文化(古代學協會) 六—三

古代文化(古代學協會) 六—四

文化學年報(同志社大学文化学会) 六—四

日本史研究(日本史研究会) 六—〇

紀要 史學(中央大学文学部) 六—〇
考古學報(中国社会科学考古学研究所) 二〇—一五—一
山口大學文學會志(山口大学文学会) 六—五
奈良史學(奈良大学史学会) 三—三
經濟研究(一橋大学經濟研究所) 六—六—二
人文學(同志社大学人文学会) 一—九—五
史觀(早稲田大学史学会) 一—七—二
東洋文化(東京大学東洋文化研究所) 九—五
日本歷史(日本歴史学会) 八—〇—三

- 史學研究(廣島史學研究會) 二八七
 美術研究(東京文化財研究所) 四一四
 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民俗博物館) 一九一
- 大倉山論集(大倉精神文化研究所) 六一
 駁台史學(駁台史学会) 一五四
 東洋史研究(東洋史研究会) 七三—四
 同朋大学佛教文化研究所紀要(同朋大学仏教文化研究所) 三四
 史迹と美術(史迹美術同致会) 八五—三
 関学西洋史論集(関学西洋史研究会) XXXVIII
- 史創(史創研究会) 五
 アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究所) 四一
 経済論究(九州大学大学院経済学会) 一五
 一
 新潟県立歴史博物館研究紀要(新潟県立歴史博物館) 一六
 同朋大学佛教文化研究所報(編者) 二八
 経済科学(名古屋大学大学院経済学研究科) 六一—四
 経済科学(名古屋大学大学院経済学研究科) 六一—三
 飛鳥資料館研究図録東アジア金属工芸史の研究(奈良文化財研究所飛鳥資料館) 一
 八
 オリエント(日本オリエント学会) 五七—二
 二
 日本民俗学(日本民俗学会) 二八一
 人文研究(小樽商科大学) 一一九
 美術研究(東京文化財研究所) 四一五
 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内)) 一二四—三
 一
 皇學館大学研究開発推進センター年報(皇學館大学研究開発推進センター) 一
 皇學館大学研究開発推進センター紀要(皇學館大学研究開発推進センター) 一
 政大史粹(政大史粹編纂小組) 第二七期
 立命館文學(立命館大学人文学会) 六四—二
 松本市史研究(松本市) 二五
 東洋大学文学部紀要(東洋大学) 六八史料科篇四〇
 藝林(藝林會) 六四—一
 アジア文化研究所研究年報(東洋大学アジア文化研究所) 四九
 東洋文化研究(学習院大学東洋文化研究所) 一七
 学習院大学東洋文化研究所調査研究報告(学習院大学東洋文化研究所) 五九
- 人文地理(人文地理学会) 六七—一
 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民俗博物館) 一九四
 臺灣師大歴史學報(國立臺灣師範大學歷史學系) 五一
 臺灣師大歴史學報(國立臺灣師範大學歷史學系) 五二
 信濃(信濃史学会) 六七—四
 東北学院大学論集歴史と文化(東北学院大学学術研究会) 五三
 日本研究国際日本文化研究センター紀要(国際日本文化研究センター) 五一
 一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編纂委員会) 三九—三・四(通卷一八〇)
 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民俗博物館) 一九五
 日本史研究(日本史研究会) 六三—一
 日本塩業の研究(日本塩業研究会) 三四
 愛知大學文學論叢(愛知大学文学会) 四五
 一
 広島大学大学院文学研究科論集(広島大学大学院文学研究科) 七四
 鹿児島大学法文学部紀要(鹿児島大学法文学部) 人文科学論集八〇
 鹿児島大学法文学部紀要(鹿児島大学法文学部)

学部) 人文科学論集八一

東北大学文学研究科研究年報(東北大学大学院文学研究科) 六四

龍谷大学経済学論集(龍谷大学経済学会) 五四—一〇一

ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一三三—一

アジア研究所所報(亜細亜大学アジア研究所) 一五八

日本歴史(日本歴史学会) 八〇四
古代文化(古代学協会) 六六—四(改訂版)

大東文化大学漢學會誌(大東文化大學漢學會) 五四

専修史学(専修大学歴史学会) 五八
エネルギー史研究—石炭を中心として—(九州大学記録資料館産業経済資料部) 三〇

石炭研究資料叢書(九州大学記録資料館産業経済資料部) 三六

栃木県立文書館研究紀要(栃木県立文書館) 一九

栃木県立文書館だより(栃木県立文書館)

五七

福島県立博物館紀要(福島県立博物館) 二九

経済学研究(九州大学経済学会) 八一—四
経済学研究(九州大学経済学会) 八一—五・六合併号

国家学会雑誌(国家学会事務所) 一一八—三・四

中央研究院歴史語言研究所集刊(中央研究院歴史語言研究所) 八六—一
纏向学研究センター研究紀要纏向学研究(桜井市纏向学研究センター) 三

桜井市埋蔵文化財発掘調査報告書(桜井市纏向学研究センター編) 四四

桜井市纏向学研究センター年報(桜井市纏向学研究センター) 二二(二〇一四)

長崎大学教育学部紀要(長崎大学教育学部) 一

編集後記

例年にも似ず梅雨らしい長雨が続く。国立大の人文・社会科学系学部を縮小せよとの文科省の通達は、世事に疎い小生の耳にも届いてきた。実業界の要請に依ってこの手の議論が進められてきたことには、それ

なりの理由もあるう。大学は世の中の役に立つ人材を育成せよ。ごもつともなお話だ。日々国民の血税を食みながら、無駄な研究の何が悪いと居直る態度は、文化系学部を目的にする人々につける隙を与えるだけである。今後は、そもそも大学の知的営為自体に価値を認めない妄人が権力を握り、目に国法なき無体な要求を国民に強いてこないとも限らない世の中だ。昨今の長雨が国の根幹を腐らせないことを祈りつつ、不肖小生も襟を正さねばなるまい。(山崎)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenyukai.jp/index.html>

二〇一五年五月二五日印刷
二〇一五年五月三日発行 定価一、二〇〇円

史 林 第九八巻第二号(通巻第五二号)

京都市京区吉原町京都大学大学院文学研究科内

電話 七五五・七五三・二七七八
FAX 〇七五・七五三・二七七八

発行人 史学研究会

振替京都〇一〇七〇二二一五五番
理事長 永井和

印刷所 中村印刷株式会社
京都市南区上高畑薬田一九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCVIII No. 3

May 2015

CONTENTS

Articles :

SASAKI Hiromitsu, *Stiftungsgeschichte im Herzogtum Braunschweig in der Frühen Neuzeit* (1)

OKAMOTO Taku, *The Training of High-Ranking Officials in France in the Second Half of the Nineteenth Century: The Auditorat in the Conseil d'État under the Second Empire and the Third Republic.* (37)

KOKUBU Koji, *The "Surplus Expenditure" Issue in the Early Taishō Period, Focusing on the Second Ōkuma Cabinet* (71)

Book reviews :

Bryan Ward-Perkins, *The Fall of Rome: And the End of Civilization* (TOMII Makoto) (104)

TAKEGAMI Mariko, *Sun Yat-sen, A Man of Science* (FUKAMACHI Hideo) (111)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 1,200円

ISSN 0386-9369